

熊本から第4報です。

朝、御船、益城、阿蘇へと支援物資を運ぶYMCAの定期便に乗って御船スポーツセンターへ。被災者への昼食賄を手伝い、希望が丘病院に弟子丸先生を訪ねる。中央YMCAにもどり、JCMA熊本部会の坂本宣子看護師にお会いする。その後は中央YMCA対策本部において、ミーティングに参加、情報交換。

1. 御船スポーツセンターに避難されている被災者への支援はうまくいっているように見受けられた。昼間は家の片付けなどに行かれている方が多く、夜は190人ほどが宿泊されているとのことだが、昼食は50食程度。体育館は天井部分の落下に加え、躯体の亀裂もあるとのことでは使えず、被災者は他の部屋や廊下におられた。ここでもプライバシーをいかに保つかが問題のようだ。
2. ノロ、インフルエンザなどの感染症は発生していないとのこと。医療体制も、近くの役場保健師が仲介する形で確保されている。保健師の話では、ほぼ地域の医療機関がオープンしたので、他県から来てくださっているDMATなどの医師たちには本日26日で撤退していただき、あとは看護師、保健師の常駐で支援していくことを考えているとのこと。
3. 弟子丸先生を希望が丘病院に尋ねる。病院の建物の被害がひどく、入院患者は他の医療機関に移っていただいたとのこと。先生のご自宅も中はかなりの被害とのこと。YMCAで心のケアをとるの要請には、仕事場も忙しく職場を離れるのが難しい。YMCAの職員で先生と一緒に働いたPSWがいるので、その人を中心にYMCA内でチームを作り対応されてはとのアドバイスをいただく。
4. JCMA熊本部会員、坂本宣子看護師さんにお話を聞く。現在、主に教会のお仕事で、自宅、教会員の見回りなどで忙しく、友人の看護師なども、自分の病院の仕事で手いっぱい、阿蘇キャンプ地に常駐し、お手伝いする余裕はない。他県からの応援をいただければとのご意見。もっともなお話しで、27日の福岡・佐賀部会例会でお話しし、またJCMAのネットワークをつかい呼びかけてみることにする。

本日、27日午後熊本を離れ、夜、九大で持たれるJCMA福岡・佐賀部会の集まりに出席し、熊本の被災状況などについて報告予定。